

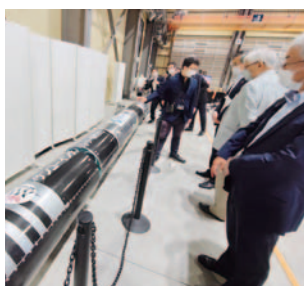
北海道宇宙産業・スマート農業視察会への参加

8月8日(月)～10日(水)、北海道経済連合会が「北海道宇宙産業・スマート農業視察会」を開催し、中経連からは水野会長をはじめ13名が参加した。大樹町を中心とした宇宙産業集積に向けた取り組みや、更別町における衛星データの利活用をはじめとする先進的なスマート農業の取り組みなどを視察した。

宇宙産業

インターステラテクノロジズ(株)

同社は小型液体燃料ロケットの開発・製造・打ち上げサービスを行っている民間の宇宙開発企業でロケットの製造工場と射場を見学した。



本社工場

代表取締役社長の稲川氏から、需要の高まる超小型衛星をターゲットにした戦略とロケットの開発状況、低価格化への取り組みなどについて説明を受けた。

大樹町多目的航空公園

園内には1,000m滑走路、JAXA(大気球実験)格納庫のほか、大樹町の展示施設などがあり、展示施設を中心に見学した。

大樹町は、「北海道に、宇宙版シリコンバレーを



大樹町宇宙交流センターSORA

つくる」をキャッチフレーズに、2021年4月からアジア初となる民間に開かれた宇宙港「北海道スペースポート(HOSPO)」の建設に着手している。

スマート農業

更別村sarapark・東京大学更別サテライトキャンパス(実証フィールド)・帯広畜産大学

地域創造複合施設「sarapark」にて、更別村の西村村長から、「更別村スーパービレッジ構想」の説明を受けた。構想は、「100歳になってもわくわく世代を超えてみんなでつながり合う幸せな地域更別村」をコンセプトに、デジタルを活用した住民サービス・スマート農業の実現を目指している。



東京大学更別実証フィールド

東京大学更別サテライトキャンパスでは、ドローンを活用した雑草検知や、ピンポイント農薬散布の実演を見学した。

帯広畜産大学では、畑作向け自動操縦トラクターに試乗するとともに対応作業を拡大すべく、メーカーと連携して



自動操縦トラクターの試乗

研究・開発が進められていると説明を受けた。

(株)ズコーシャ



自動可変堆肥機の実演

リモートセンシング技術を活用した可変堆肥マップ、小麦刈り取り順マップなどの情報サービスについて説明を受けた。自動可変堆肥機およびドローンの実演も見学した。

バイオガスプラント

エア・ウォーター(株)

同社が建設した家畜ふん尿由来のバイオガスプラントを見学した。同社では、バイオガスに含まれるメタンを液化バイオメタンに加工し、液化天然ガスの代替燃料として牛乳工場へ供給する、一連のサプライチェーンモデルの構築と実証を開始している。



バイオガスプラント

(企画部 平野 史人)

名古屋市・岐阜県・長野県・愛知県との懇談会

中経連は、事業方針や事業活動に関する情報共有や意見交換を目的に中部5県・名古屋市と懇談会を毎年度開催している。概要は以下のとおり。

開催日	参加者	
8月2日(火) 名古屋市との懇談会	名古屋市	河村市長、中田・杉野・松雄副市長をはじめ11名
	中経連	水野会長、柘植・安藤(隆)・勝野・碓井副会長、松尾理事をはじめ8名
9月1日(木) 岐阜県との懇談会	岐阜県	古田知事、大森・河合副知事をはじめ11名
	中経連	水野会長、村瀬・安藤(隆)副会長をはじめ7名
9月6日(火) 長野県との懇談会	長野県	阿部知事、関副知事をはじめ10名
	中経連	水野会長、碓井・松下副会長、中村理事をはじめ7名
9月13日(火) 愛知県との懇談会	愛知県	大村知事、古本・松井・佐々木・林副知事をはじめ10名
	中経連	水野会長、佐々木・柘植・安藤(隆)・大島・神野・碓井副会長、松尾理事をはじめ11名

※三重県との懇談会(5/9)は7・8月号、静岡県との懇談会(7/14)は9・10号にて掲載済み。

名古屋市との懇談会

冒頭挨拶で水野会長は、ナゴヤ イノベーターズ ガレージ アネックス開設に対し謝意を表するとともに、「引き続き、スタートアップの創出やイノベーションの活発化に向けてともに取り組んでいきたい」と述べた。河村市長は、『金シャチマネー』の発行や『名古屋に泊まろう!シャチ泊』を開始し、コロナ禍で落ち込んだ消費の喚起や観光需要の回復など、地域経済の活性化に取り組んでいく」と述べた。

自由懇談では、名古屋市が進める公民連携の取り組み、三の丸地区の再整備、「水」をキーワードとした木曽さらには飯田も視野に入れた広域観光の推進、東京一極集中の是正に向けた本社機能誘致などについて意見交換を行った。



岐阜県との懇談会

水野会長は挨拶の中で、「東海環状自動車道

西回り区間の開通を見据え、地域間連携による経済活性化を推進していきたい。また、リニア中央新幹線の開業効果を高めるため、一層連携を強めていきたい」と考えを示した。古田知事は、「課題認識は双方で共通しており、積極的に意見・情報を交換して足並みを揃えていきたい。また、リニアは、速やかに工事を進めることと経済社会にいかに活用するかが課題であり、経済界も含めてオールジャパンで取り組んでいきたい」と述べた。



自由懇談では、リニア開業による時間距離の短縮効果や東京にない魅力の見せ方などの情報発信の大切さ、武将観光・山岳観光・流域観光といった県境をまたいだ観光振興などについて意見交換を行った。

長野県との懇談会

水野会長は、「デジタル化やDXの推進、カーボンニュートラルに向けた対応などを通じて、中部圏の持続的な発展や生活の質の向上に貢献していきたい」との意向を示した。阿部知事は、「時代の潮流をしっかりと踏まえ、未来に向けた施策を展開していきたい。デジタル化や脱炭素社会の実現、新型コロナ

ウイルス感染症など山積する課題の中で、一つでも二つでも一緒に取り組めることを見つけない」と述べた。

自由懇談では、産学官が連携して初級・中級・上級のデジタル人材を育成する「信州DX推進コンソーシアム」の取り組みや、長野県の豊富な自然エネルギーを活用した脱炭素の推進、大都市圏から長野県への人や企業の呼び込みを強化する「信州回帰プロジェクト」などについて意見交換を行った。



愛知県との懇談会

冒頭挨拶で水野会長は、明治用水頭首工の大規模漏水に対して復旧に向けた迅速な対応に謝辞を述べるとともに、県政150周年を迎える愛知県のさらなる発展への期待を示した。大村知事は、中経連の活動および会員企業の社業を通じて地域に活気をもたらしていることに謝意を示し、「引き続き連携を図り、地域活性化を前進させていきたい」と述べた。



自由懇談では、コロナ禍で大打撃を受けている航空機産業への継続支援、一宮西港道路や名古屋三河道路などの早期整備、中小企業に対するデジタル化やカーボンニュートラルの実現に向けたマインド醸成などについて意見交換を行った。また、三の丸地区の再整備について、水野会長が「国・名古屋市とともに検討を進めていただきたい」と述べた。

(企画部 櫻井 景子)

地域会員懇談会

中経連は、会員の皆様からの意見を今後の事業活動に生かすことを目的に、地域会員懇談会を下表の日程・都市で開催した。当日は、水野会長の挨拶に続き、事務局から今年度の主要事業活動について説明した後、意見交換を行った。参加者からの主な発言は以下のとおり。

開催日	開催都市	参加者
8月23日(火) 静岡地域会員懇談会	静岡市	水野会長、中西副会長、中田副会長をはじめ20名
8月26日(金) 愛知地域会員懇談会	名古屋市	水野会長、佐々木副会長をはじめ55名
8月31日(水) 愛知地域会員懇談会	名古屋市	水野会長、佐々木副会長、安藤(隆)副会長、高原副会長、松尾理事をはじめ61名

※三重、岐阜、長野の地域懇談会については9・10月号にて掲載

カーボンニュートラルの実現に関する意見・要望

- アンモニアや水素といった新たな燃料の活用方法を検討していくことが重要になる。並行して調達インフラの整備にも取り組まなければならない。〈愛知〉



JERA 榎原支社長

- 脱炭素に向けた課題は各産業で共通するものが多く、横断して幅広く議論していく必要がある。中部圏はさまざまな産業が集積しており、議論を展開しやすいと考える。〈愛知〉
- アンモニアや水素のサプライチェーン構築や拠点整備は、国の政策支援がないと実現は難しい。政策支援の充実に向けた提言を引き続きお願いしたい。〈愛知〉

観光に関する意見・要望

- コロナ禍で人々の志向が団体旅行から個人旅行にシフトしていることを踏まえ、DMOも考え方を変えていかなければならない。
〈静岡〉



鈴木 鈴木会長

- ウィズコロナに向けた観光のあり方も少しずつ見え始めている。中部圏における観光資源の新たな発見や見直しも進んでおり、今後は各地域の魅力を一層PRしていく必要がある。
〈愛知〉
- 愛知県は、「ジブリパーク」「アジア競技大会」「リニア開通」などのインバウンド誘致に向けたチャンスが多い。中部圏の魅力をつなぐ広域連携を中心にした観光基盤やネットワークの整備を早急に行うことが重要である。〈愛知〉

産学官連携に関する意見・要望

- 静岡大学では、留学生の就職支援制度「アジアブリッジプログラム」を設けている。特に学士課程の学生は4年間日本で学ぶことにより日本語スキルが向上し、地元企業への就職が比較的スムーズである。留学生と企業とのマッチング機会を増やすために、在学中にインターンシップができる仕組みができればと考えている。今後も、留学生の地元企業への就職に一層注力していきたい。〈静岡〉
- 大学と企業の共同研究において、大学教授に企業の研究所に入ってもらう手法を導入している。人材交流を行い、相手の組織に入り込んで実践していくことが重要だと考える。〈愛知〉
- 産学連携の主な課題は「大学シーズと企業ニーズのギャップ」と「大学と企業のマッチング機会が少ない」ことである。大学側としては、ナゴヤ イノベーターズ ガレージを活用し、企業ニーズの把握や企業



中京大学 橋本副学長

人材のリカレント教育の受け皿を用意することにより、企業との接点を増やしたい。〈愛知〉

DX・イノベーションに関する意見・要望

- 中小企業がDX・IoT化を進めるにあたり、副業・兼業の活用が後押しになるのではないかと。静岡の中小企業で自社のデジタル化に関する求人を行ったところ、浜松商工会議所 酒井会長 首都圏を中心に約1,000人から応募があった。中小企業では人事までなかなか手が回らないため、仲介役としてサポートしていきたい。〈静岡〉
- イノベーションを起こすために、ベンチャー企業と大企業の共創が必要である。ナゴヤ イノベーターズ ガレージには、国内外を問わず、さまざまな共創施設との連携を強化し、ネットワークを広げてほしい。〈愛知〉



浜松商工会議所 酒井会長

人手不足に関する意見・要望

- 建設業界では、女性技術者や外国人の採用が増えてきている。一方、ミスマッチ採用も課題となっており、適材適所の配置転換を行うことで定着率を高める取り組みを行っている。現場職人の採用についても協力業者とポータルサイトを作り、関係企業全体で協力しながら人材確保に努めている。〈愛知〉
- 就業体験を通じて、仕事の魅力を知ってもらうなど業界団体全体で人材確保に取り組まなければならない。〈愛知〉
- IT人材は不足しており、全国で取りあいになっている。一方、外国人エンジニアが海外からリモートで日本企業のITシステム構築の支援を行うなど、国をまたいだ仕事の仕方も増えている。〈愛知〉



矢作建設 高橋社長

(総務部 柳田 智之)